



事業名

まちの魅力を発信！市民PRチーム「いこまち宣伝部」



GOOD DESIGN AWARD
2022年度受賞



取組の概要

まちの人・店・風景などを取材し、市公式SNSやプロモーションサイトで発信する市民PRチーム「いこまち宣伝部」。2015年にスタートし、現在9期目を迎えています。これまで119名が参加、1,000件以上の魅力を発信しています。

部員それぞれの視点で取材先の選定から記事作成までを担当し、暮らしに根差した多様な魅力を届けています。2022年度にはグッドデザイン賞を受賞し、審査員からは「PR活動ではなく、シビックプライドを醸成する活動」と評価されました。全国の自治体から視察が相次ぎ、愛知県春日井市や鹿児島県垂水市などでも「宣伝部」が始まっています。

市民が見つけた多様な魅力を市のオウンドメディアで発信



いこまち宣伝部を企画したのは2014年。広報紙の読者アンケートから「お店や教室などの地域情報」が求められていることが分かりました。また、当時は子育て施策や都心へのアクセスの良さを市外にPRしていましたが、行政施策を核にした発信ではまちの魅力を伝えきれず限界を感じていました。

こうした経緯から、市民の皆さんがまちの魅力をそれぞれの目線で発掘・発見して、SNSで発信する「いこまち宣伝部」を2015年にスタートしました。

年に1度10人程度の部員を募集。情報発信に必要な知識を学んでから1年間活動します。18~49歳の生駒市民なら参加でき、まちの魅力を発信したい人だけでなく、地域で友達を作りたい人や地域を知りたい人が参加しています。

1年間の取材を通してまちを好きになる



部員の平均年齢は35歳。大学生や会社員、主婦、デザイナーなど暮らし方も多様です。例年、定員を超える申込みがありますが、カメラや取材などプロの講座を無料で受講できることや、OMデジタルソリューションズ(株)の協賛で一眼カメラを無償利用できるのも人気の理由です。また、活動期間を1年限定にすることで参加のハードルを下げています。

部員は、毎月1本の記事を作成。取材先の選定、アポ取り、取材、撮影、文章作成を自ら行い、市職員がSNS公開前にチェックします。取材という名目で気になっていたお店のこだわりや店主の人生を深く聞けたり、新たな取材先を紹介してもらったり。宣伝部という肩書を通じて、まちで友人や居場所がたくさんでき「生駒で暮らしていてよかった」と感じる人はたくさんいます。単なる情報発信ではなく、人がつながる仕組みとしても運用しています。

卒業後はまちづくりの担い手として多方面で活躍



取材を通じて、多くの人とじっくり話し、想いを知ることが可能です。生駒の魅力的な人・コト・モノに継続的に会うことで、まちへの愛着が生まれ、自らがまちづくりの担い手になるというサイクルが生まれています。

取材先のこども食堂にボランティアとして参加した人、写真で生駒の魅力を伝えるサークル活動「イコマカメラ部」や公園で親子が月一回集う活動「公園にいこえん」を立ち上げた人など、活動終了後も多くの方が主体的にまちと関わり続けています。

まち全体にも変化が起きています。宣伝部の立ち上げ時、市の調査で「生駒の魅力がわからない」と答えた人は約15%でしたが、5%まで減少しました。生駒市への居住を知人に薦める「推奨意欲」は50%から14ポイント上昇。今後も宣伝部を核とした情報発信を続け、生駒市の魅力を万博を機にさらに届けていきます。



問い合わせ先: 奈良県生駒市
担当者: 広報広聴課 プロモーション係
URL: <https://goodcycleikoma.jp/>
Mail: kouhouka@city.ikoma.lg.jp



360°EXPO拡張マップ

奈良県生駒市

市民PRチーム「いこまち宣伝部」